

## 2 石綿関連疾患（アスベスト）分野工程表

### 1. 中期計画における本分野の目的

臨床事例の職歴や石綿へのばく露歴等を踏まえて石綿小体と石綿繊維の計測結果の対応関係を科学的に検証し、迅速な石綿繊維計測法の開発を目指し、労災認定における診断の迅速化・適正化を図る。

### 2. 研究内容

#### (1) 研究名：透過電子顕微鏡による迅速な石綿繊維計測法の開発

##### ア 研究の目的

従来の透過型電子顕微鏡計測法は石綿繊維数を確定する目的が必要であるが、これと対比可能なレベルで石綿繊維数と繊維性状の把握を迅速に行う計測法を開発し、従来の計測法に対するスクリーニング法として確立することを目的とする。

##### イ 方法等

平成 27 年度まで実施してきた透過電子顕微鏡による迅速計測法について、岡山労災病院が保有する透過電子顕微鏡による従来の計測法で計測した高濃度～低濃度の試料等を利用し、迅速計測法に適した試料濃度の設定を行う。また、国内労災病院が有する石綿ばく露歴の詳細記録があり石綿小体計測が実施されている事例を収集し、迅速計測法の妥当性を検証する。

#### (2) 研究名：石綿肺がん診断における石綿繊維と種類に関する研究

##### ア 研究の目的

肺内石綿小体数が 1,000～4,999 本/g の範囲の肺がん症例において、肺内石綿繊維を測定することにより、どのような職種で従事期間がどの程度であればヘルシンキクライテリアの $5\mu\text{m}\cdot 200$  万本以上、 $1\mu\text{m}\cdot 500$  万本以上であるかについて検討する。また、従来のヘルシンキクライテリアはクロシドライトあるいはアモサイトの基準であったが、クリソタイルばく露作業者の石綿繊維認定基準が現在のままで良いか、検討を行う。

##### イ 方法等

原発性肺がん症例で手術あるいは剖検を施行された症例のうち肺内石綿小体数が 1,000 本～4,999 本検出された対象に、性別、年齢、職業歴と石綿ばく露年数、胸部画像上の胸膜プラーク等の石綿関連肺・胸膜病変について検討するとともに、石綿小体数と石綿繊維の種類と本数の測定を行う。

